

2020年度（令和2年度）
第1回 福山市廃棄物減量等推進審議会 議事概要

1. 日時等

日時：2020年（令和2年）8月25日（火）

14:00～16:00

場所：福山市役所本庁舎6階 60会議室

2. 出席者

委員：鶴崎健一 会長，長谷川良二 副会長，内田隆士 委員，川上富美子 委員，栗原正和 委員，清水直樹 委員，園尾俊昭 委員，田辺洋子 委員，連石武則 委員，中込ひとみ 委員，中田基晴 委員，山根直子 委員，吉岡睦子 委員（13名）

事務局：経済環境局長，環境総務課長，環境保全課長，廃棄物対策課長，環境啓発課長，南部環境センター所長，北部環境センター所長，北部環境センター主幹，環境総務課整備担当次長，環境総務課職員

3. 承認・報告について

○委員18名中13名の出席により定足数を満たしていることから，本審議会が成立していることを報告した。

○福山市廃棄物の処理及び再生利用等に関する条例施行規則第5条第2項により会長は鶴崎委員，副会長は長谷川委員が選任された。

4. 福山市一般廃棄物処理基本計画策定について（諮問）

○経済環境局長から会長へ諮問書が提出した。

5. 議事（1）福山市一般廃棄物処理基本計画の中間見直しについて

ア 一般廃棄物処理基本計画の中間見直しの趣旨等について

事務局から，資料2による説明後，質疑応答を行った。

質疑・提案（委員）	応答（事務局）
高齢化の進行とあるが，超高齢社会に対する取組で，何か考えているか。	他市や民間企業では，ごみ出し支援などを行っているが，具体的な取組については，中間見直しの中で検討していく。

イ ごみ処理，生活排水の現状

事務局から，資料3と4による説明後，質疑応答を行った。

質疑・提案（委員）	応答（事務局）
家庭系ごみが減少していて、事業系ごみが増加している原因は。	環境に対する意識の向上により、家庭系ごみは減少していると考えられる。 事業系ごみは、景気の影響を受けていると考えられる。
景気のせいばかりにしては、理由にならないのではないか。景気がよかった実感がない。	2009年（平成21年）にあったリーマンショックに比べると、実感はわからないのかもしれないが、景気は回復している。詳細な理由については、アンケート調査などを行って、整理をする。
福山市の最終処分場は、あと何年くらいでいっぱいになるのか。	20～25年と想定しているが、今年度3Dの測量を行い、詳細を把握する予定である。
府中市は、不要になった衣服や布を別途分別して資源とする取組をしているため、リサイクル率が高いと思っているが、府中市を始め、大竹市などリサイクル率が高い市の特徴的な取組を把握していれば教えてほしい。	リサイクル率にはRDFが反映されるため、福山市は43.3%となっているが、RDFを除けば約11%になる。県内でリサイクル率が高い市は、RDFの参画市町である。今後、他市町へ調査を行うこととしており、その中で、RDF以外の特徴的な取組について整理する。
下水道に接続できるのに、接続していない人口はどれくらいいるのか。	下水道に接続できる人口と、接続している人口は違う。2018年度（平成30年度）末時点の公共下水道人口普及率は73%であり、そのうち、93.9%が実際に接続をして使用していると上下水道局から聞いている。

ウ 現行計画の中間評価と課題について

事務局から、資料5による説明後、質疑応答を行った。

質疑・提案（委員）	応答（事務局）
福山市の家庭系ごみはほぼ横ばいに推移しており、行政の支援や各家庭の協力で成果が出てきていると思う。今後も、SDGsのように持続可能で長期的に、無理のない範囲でごみの減量化に取り組めるようアピールをしていったらよい。	成果が出ているものの、より一層減量化を進めていく必要があると思っている。環境基本計画の中でもごみの減量化を位置付けており、それぞれの取組項目はSDGsの視点で、市民や事業者、行政など様々な主体と連携して進めていく必要がある。
食品ロスが社会的な問題となっており、国民1人が1日に茶碗1杯のご飯を捨てているよう	環境部でフードドライブの取組をしたこともあるが、ごみの減量化や食品ロスについては、

<p>な計算になる。環境啓発課では啓発運動を展開しているが、市民一人一人の問題として、ごみに関心を持って取り組んでいく必要がある。</p>	<p>行政だけで解決するのは難しい。市民や事業者と推進していく必要があると思うので、一緒に取り組んでいきたい。</p>
<p>課題の中に「分別のあり方の検討」とあるが、次期ごみ処理施設ができたときに、分別変更を考えているのか。</p>	<p>次期ごみ処理施設は焼却となっているので、資源ごみやプラスチックごみの分別のあり方について検討することを想定している。国が検討しているプラスチック資源の一括回収や、市内中間処理施設の老朽化状況、更新計画など全体を見ながら、分別の種類などを見直すべきか検討する必要があるということで、掲げている。</p>
<p>資源回収量が減っていると資料内で示されたことや、実際に老人会などが資源回収をやめたり、ICT技術の発達によって新聞や雑誌の購買が減少していることなど、資源量自体が減っているという実感がある。資源回収のあり方の検討を課題として挙げた理由は。</p>	<p>ごみ排出量はなかなか減少しないが、回収量が減少していることが理由である。資源回収の仕組みがあるものの、減量化につながらないことや少子化・高齢化で団体としての取組が難しくなっているところがあると聞いている。いかに資源として回収できるのか、今後検討していく。</p>

エ ごみ組成調査及びアンケート調査について

事務局から、資料6による説明後、質疑応答を行った。

質疑・提案（委員）	応答（事務局）
<p>ごみの排出実態などを一番把握しているのは、収集をしている市職員や委託業者の人だと思うが、情報収集はしているのか。</p>	<p>直営収集については、各環境センターと定期的に情報交換を行っている。委託業者や許可業者については、必要に応じてヒアリングを行いながら、実態把握に努めている。</p>
<p>捨て方に困るものがたまにあるので、市民が困っている分別を拾い上げて、分別方法を改定してほしい。</p>	<p>市にも日々問い合わせが寄せられているところである。処理困難なものについては、処理ラインや収集に影響するため、課題を抽出しながら、世の中の動向も踏まえて考えていく。</p>
<p>ごみ組成調査をするなら、風評被害を防ぐために、市の広報などで、プライバシーや個人情報に十分留意して行う旨発信したほうがよいのではないか。</p>	<p>市議会には、きちんと報告をする。また組成調査については、環境省がガイドラインを示しているため、それに基づいて十分な配慮をして実施する。</p>